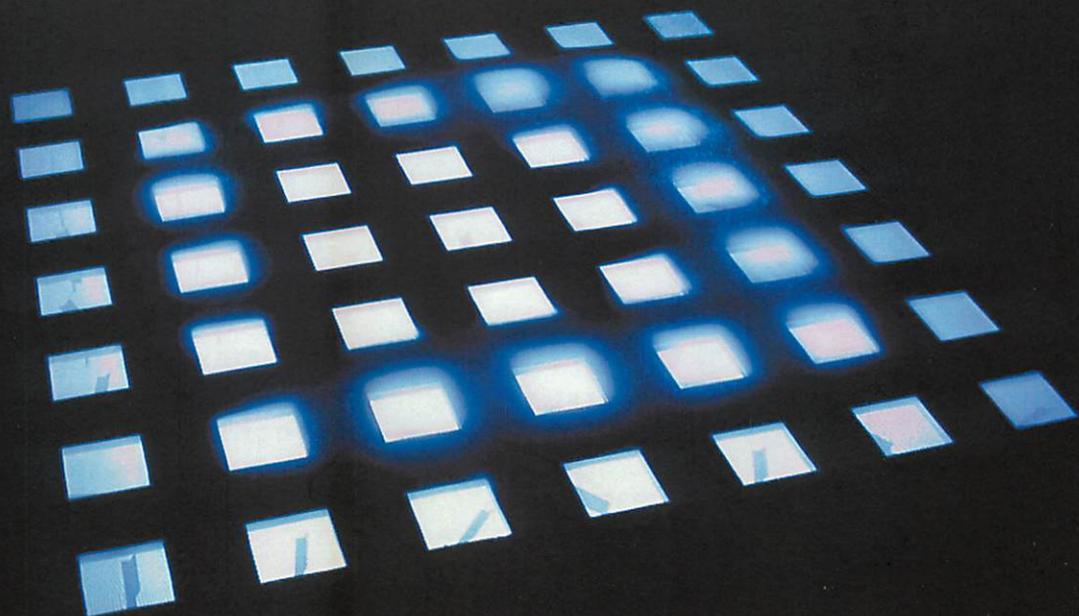


青の軌跡
芸術科学会DIVA展大賞作品
鈴木太郎(東京藝術大学)



芸術科学の成果が結集した学術アート展始まる

DiVA 芸術科学会展

Exhibition

5.20 Tue - 5.23 Fri 9:30-16:30

入場無料

Artists Presentaion / Symposium

5.23 Fri 15:30-17:30

入場無料

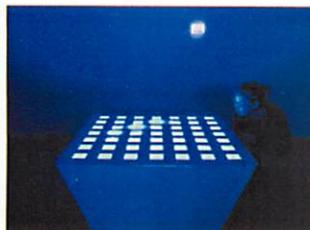
東京工業大学 大岡山キャンパス 百年記念館 (東急大井町線・目黒線「大岡山」駅正面) <http://www.titech.ac.jp/>

主催/芸術科学会DIVA展実行委員会 芸術科学会

「青の軌跡」鈴木太郎(東京藝術大学) / 「bouncestreet - 弾む街角 -」みやばら美か+すぎもとたつお(名古屋学芸大学) / 「the Labyrinth Walker」しらいあきひ+十岩下克十
長谷川晶一+佐藤誠(東京工業大学) / 「Pseudo -3D Photo Collage@Enro-」- 擬似3次元フォトコラージュで再構成された中国・円樓の空間 - 田中浩也(京都大学) + 伏見隆夫(写真家) / 「C/t - cycle of touch -」松村誠一郎(東京大学) / 「CM process#2」松尾 邦彦(inter media performance unit nest) / 「ACTIM」植木淳朗+岩田幸之(慶應義塾大学) / 「SONASPHERE」徳井直生(東京大学) / 「Dynamo: 触覚VR開発環境SPRINGHEADを用いたアートワーク習作」しらいあきひ+十岩下克十+佐藤誠(東京工業大学) + 上條慎太郎(東京工芸大学) / 「Sound of Regions - コンピュータビジョンを用いたインタラクティブなインスタレーション -」永江孝規(東京工芸大学)

同時開催

第2回NICOGRAPH春季大会 論文&アート部門コンテスト 5.23 Fri 9:30-17:00 東京工業大学 大岡山キャンパス



大賞
青の軌跡
鈴木 太郎
東京藝術大学大学院美術研究科

<http://homepage.mac.com/suzukitaro1/>

作品上面には計49個の正方形の窓が開いている。これらの窓内部にはそれぞれ風が起こるようにプロペラが仕込まれている。プロペラは赤外線センサからの反応で一定の規則を持って動くようプログラムされている。窓の上全体にはオーガンジーをかぶせてあり、プロペラが起こす風により窓周辺のオーガンジーが数ミリ程膨らむように出来ている。作品内部から出る青い光がプロペラで起こった風により膨らんだオーガンジーに反射し、窓枠周辺がその反射光で光る。視覚上では窓枠に青い光りが滲み、周囲の窓よりも光って見えるように演出されている。



優秀賞
bouncestreet
弾む街角
みやばら美か+すぎもとたつお
名古屋学芸大学

街角では、さまざまな色が変化している。この作品では、街の色の移り変わりを、ボールが弾むアニメーションと音で表現した。作者は、ビデオカメラで街の表情—お店の看板や行き交う人々の服など—を撮影する。この作業は、街を切り取ってボールと音に変換するために行う。撮影された映像は、その場でボールが弾むアニメーションになり、ビルディングの壁面に投影される。



優秀賞
the Labyrinth Walker
ラビリンス・ウォーカー
しらいあきひこ (発案・制作)
岩下克 (開発)
長谷川晶一 (技術)
佐藤誠 (監修)
東京工業大学精密工学研究所

『ラビリンス・ウォーカー (the Labyrinth Walker)』は、新しい移動インタフェイスデバイスのためのデモ・コンテンツとして生まれた作品であり、応募者による『足と床』インストール作品シリーズとして3作目の作品となる。広視野床面スクリーンとターンテーブルというシンプルな装置構成であるが、体験者は一切の装着物なしに、バーチャルな迷路の世界を歩き続けることができる。



奨励賞
Pseudo
3D Photo Collage @ Enro
擬似3次元フォトコラージュで
再構成された中国・円樓の空間

<http://www.spacetimesdesigns.org/soko/enrospace.html>

この作品は、擬似3次元フォトコラージュシステムを開発した田中と、世界各地を旅行し写真撮影を行ってきた伏見とのネット上でのコラボレーションによるもの。田中が研究開発したソフトウェアをWeb上に無料公開したのが発端となり、伏見がそれを用いて中国・円樓地区を再現する作品を制作した。

田中 浩也
京都大学情報科学研究科COE研究員
伏見 隆夫
写真家



奨励賞
C/t -cycle of touch-
松村 誠一郎
東京大学大学院学際情報科学府

インタラクティブアート作品「C/t -cycle of touch-」(以下C/t)は鑑賞者の「触れる」行為が音に変換され、それを「聴く」というプロセスによって成立する作品である。鑑賞者が金属や木のオブジェクトを「叩く」「ひっかく」「擦る」「落とす」という単純な「触れる」行為が生み出す音は4秒ごとに録音され、16回くり返し再生される。「C/t」は、目に見えず、意識にのぼらないが確かにそこに存在している音を拡大し、くり返し提示することによって「触れる」行為が生み出す小さな音を鑑賞者に意識させる。

芸術科学会 D i V A 展

コンピュータサイエンスの進歩は私たちの生活や社会をこの数十年間で大いに一変させました。そして、そのイノベーションは今も絶え間なく続いています。芸術と科学はともに融合しあいながら、この進歩を支える創造力の裏方であり続けていました。この新しい関係は私たちの絶え間無い発展のためにより一層重要なものとなりつつあります。

より重要性を増す、芸術と科学の新たな関係が生み出す、複合領域が生み出す成果を作品として審査し、評価して行こうという取り組みがこの芸術科学会 DIVA展です。

芸術と科学の融合領域において生み出される、コンピュータを用いて制作された作品として、全国の研究機関から応募を受け、芸術と科学(あるいは融合領域)の専門家によって構成される委員会により厳正に審査され入賞した作品が、本展にて展示されます。

同時開催：芸術科学会会員による作品展示(芸術科学会Diva展会場にて)



DiVA2003賞(審査委員会特別賞)

CM process

松尾邦彦

intermedia performance unit nest

近年、intermedia performance unit nestは[CMprocess]というパフォーマンス生成プログラムを開発してきた。出発点は、オブジェクティブなダンスパフォーマンスの構成法を考えることであったが、コンピューターなどのデバイスを導入することで、身体同士だけではなく、舞台を構成する様々な要素が複雑に絡み合うパフォーマンスのリアルタイム生成を実現している。



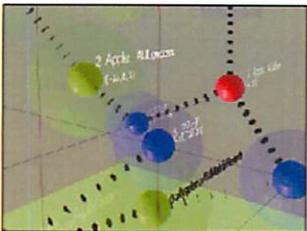
入選

ACTiM

植木淳朗+岩田幸之

慶應義塾大学情報学研究室

ACTiMはくつろぎのためのインターフェイスです。座って姿勢を変化させることで、椅子から様々な風景を象徴する“音”が聞こえてきます。繁華街沿いのカフェ、にぎやかなジャズバー、どこか遠い森の中、子供の遊ぶ遊園地、広大な海原などの環境の中で、思わず耳を傾けてしまうような動きのある“音”が重なり合うことによって「風景の記憶」を引き出す。「座るという日常行為からのエンターテインメント」「デジタルによるアナログのリデザイン」という試みをACTiMは提案している。



入選

SONASPHERE

Biosphere of Sounds

徳井直生

東京大学工学系研究科工学専攻伊庭研究室

SONASPHEREは、3次元インターフェイスに基づくインタラクティブな音楽作品である。本作品では、オーディオファイルやオシレータ、エフェクタなどを一つの単位として、3次元空間上に物体として表現することで、鑑賞者の直感的なリアルタイム操作を実現する。また、音声信号の流れやプロセスの制御関係をビジュアルとして提示することによって、音楽の聴取・演奏に、新しい「意味」を付加しようとする試みでもある。



入選

Sound of Regions

コンピュータビジョンを用いた
インタラクティブな
インスタレーション

永江孝規

東京工業大学大学院

本作品はパターン認識やビジョンの分野で「領域分割」と「ラベル付け」という名前と呼ばれているものを素材として、そのまま使っている。背景をブルーバックにし、実時間で映像を読み込み、ブルーバックの前で動く人体によって区切られた個々の領域に音階と音量が割り当てられる。音階と音量はそれぞれの領域の重心のx座標とy座標によって決まる。



入選

Dynamo

触覚VR開発環境
SPRINGHEADを用いた
アートワーク習作

しらいあきひこ(発案・制作)
長谷川晶一、佐藤誠(技術協力)

東京工業大学精密工学研究所

上條慎太郎(制作協力)

東京工業大学

芸術と科学の境界領域のクリエイティビティを具現化するとき、時としてその活動は、プログラミングやデバイス開発、緻密なアルゴリズムといった工学的開発行為と変わらない工程で行われることが多い。特に触覚VRといった先端技術においては、技術的障壁が高く、純粋にアートワークと呼べる触覚VR作品はほとんど存在していないのが現実である。本作品は、アートワークとしての触覚VRが成立しうるか、という挑戦である。

特別奨励表彰作品

入選ではないが、学生や若年層として大いに将来を感じさせる作品に対して、特別奨励表彰を授与します(ビデオのみの展示になります)。

「ビニルハウス」

生物のように浮き沈みを繰り返すキネティックアート

蒔貴彦(多摩美術大学情報デザイン学科情報芸術専攻)

板の上に植物をのせ、それをビニルで覆い、上面に板と電動ファンと電球を取り付けたものを一つの「ビニルハウス」としました。多数のビニルハウスの動きの組み合わせで作品が成り立っている。フワフワとした浮遊感を感じる動きで浮き沈みを繰り返し、空気を吸い込む時に放つ光はビニルというフィルタの中で不思議な影を作り出す。

「NA-BOXELIGHT」

岩沢駿(東京大学工学部システム創成学科シミュレーションコース)

吉田知史(早稲田大学国際情報通信研究科)

鎌田裕之(東京工業大学電気電子工学科)

本作品は、アクリルキューブを立体格子状に配し、内蔵された青色LEDの点滅によって動的な立体形状を実空間上に表示する試みである。観覧者は液晶シャッター眼鏡等のデバイスを必要とせず、あらゆる視点から対象の立体形状を見ることができる。1つのLEDが立体形状の1画素に対応し、PCで計算された映像の3次元情報をマイコンに送信し、LEDの点滅を制御する。

「樓物」

インタラクティブなテクスチャ効果を用いたメディアアート

福田陽子(東京大学大学院学際情報学府)

児玉幸子(電気通信大学人間コミュニケーション学科)

小池英樹(電気通信大学大学院情報システム学専攻)

画像認識の技法を用いて、手指の動きに対してインタラクティブにテクスチャが変化する「シンクロテクスチャ」を開

発し、メディアアート「樓物」に応用した。作品では、リアルタイムに変化するコンピュータグラフィックスにより外界からの刺激に反応する生物の息吹を表現した。

「Sukusuku Flower」

あたたかい気持ちで自然に遊べるインタラクティブ作品

渡辺綾乃+春口巖(尚美学園大学芸術情報学部)

永江孝規(東京工業大学芸術学部)

あたたかい気持ちで自然に楽しめるインタラクティブな作品を作ろうと考えた。良い天気のように、はっと嬉しくなるような気持ちを持って、夢のあるものにしたいとも思った。本作品はUSBカメラを用いて人及び背景を撮り、手などを動かすことによってこぼれ出る「光」と「聲」を地面に芽を出している植物に落とす。そうすることによって育っていく、やがて花が咲くというものである。

同時開催：芸術科学会 DiVA 展 特別プレゼンテーション & シンポジウム

【開催日時】5月23日(金) 15:30-17:30 【会場】東京工業大学 大岡山キャンパス 百年記念館 3F フェライト会議室

第一部=芸術科学会DiVA展入選者による発表

第二部=審査から考察する日本の芸術科学の可能性・応募作品の講評

審査員=今間俊博(西英学館大学)、佐藤誠(東京工業大学)、森司(水戸芸術館)、森山朋絵(東京都写真美術館)、森脇裕之(多摩美術大学)

議長=岡田智博(DiVA展運営委員、クールステーツ・コミュニケーションズ研究所、アートデモ)

【お問合せ先】芸術科学会事務局 東京工業大学大学院情報理工学研究所 中嶋研究室内 tel: 03-5734-2183 e-mail: diva@art-science.org

同時開催：第2回 N I C O G R A P H 春季大会 論文 & アート部門コンテスト

今年で19年目となる、伝統あるCG・VRおよびインタラクティブアートの祭典、NICOGRAPH論文コンテスト。従来、秋に開催していましたが、毎年投稿数も増加の一途をたどり、多くの優秀な論文が発表され、秋季のみならず春季にもNICOGRAPH論文コンテストを開催して欲しいとの要望が挙がり、昨年より初の試みとしてNICOGRAPH春季大会を開催しております。本年の春季大会は、5月23日(金)に東工大百年記念館をメイン会場として開催致します。今回は発表件数が多く、従来の2会場から3会場での講演となりました。第3会場(西8号館 E棟10階)は、3Dフォーラムと合同企画となっており、今話題の3次元映像関係の講演が集められています。

【開催日時】5月23日(金) 9:30-17:00

【会場】東京工業大学 大岡山キャンパス

第1会場=百年記念館 3F フェライト会議室 第2会場=百年記念館 2F 第一会議室 第3会場=西8号館E棟 10F 大会議室

参加無料(要事前登録) <http://www.art-science.org/app/nico03s/app.html> 大会予稿集 3,500円

CG-Award Japan 芸術科学会論文誌優秀論文賞 表彰式
(13:30-13:50/百年記念館 3F フェライト会議室)

第2回CG Award Japan受賞者

中前栄八郎氏(広島大学名誉教授、広島工業大学工学名誉教授)

芸術科学会論文誌 第1等 論文賞

「複数の3次元形状操作を統合した直観的入力ツール」村上存、日井憲

「Web2.5D用電子カタログシステム実現手法」寺沢幹雄、小高金次、佐藤創、和田重久、

外山武徳

「タンジブル・ブレイルーム:「ペンギンホッケー」」白井暁彦、長谷川晶一、小池康晴、

佐藤誠

特別企画 招待講演(13:50-14:40 百年記念館 3F フェライト会議室)

「アートの表現メディアとしてのホログラフィ」石井勢津子(美術家・東工大)

特別講演(14:40-15:20)

「ナチュラルビジョンを用いた高精細CG制作システム」村上百合、岸本純子、本村秀人、山口雅浩、羽石秀昭、大山永昭(東工大、通信・放送機構、松下電器、千葉大)

「3次元モデルデータを利用したセルアニメーション原動画作画支援システム」

野崎慎也(株式会社セルシス)

合同企画(9:30-17:10 西8号館E棟 10F 大会議室)

動き出した3次元映像関連技術と産業界交流の潮流

特別講演(14:30-15:20)

「ジェモーションのアート世界」河口洋一郎(東京大学)

3次元映像のハードとソフトのフュージョン(融合)

プログラム <http://artsci.servftp.com/NICO/index.html> 事前登録参加フォーム <http://www.art-science.org/app/nico03s/app.htm>



東京工業大学 大岡山キャンパス
(東急大井町線・目黒線「大岡山」駅正面)
<http://www.titech.ac.jp/>

編集=岡田智博(DiVA展運営委員、クールステーツ、アートデモ)
<http://coolstates.com/>

デザイン=ナカノケン(アルフェイス、アートデモ)
<http://www.alphayz.com/>